



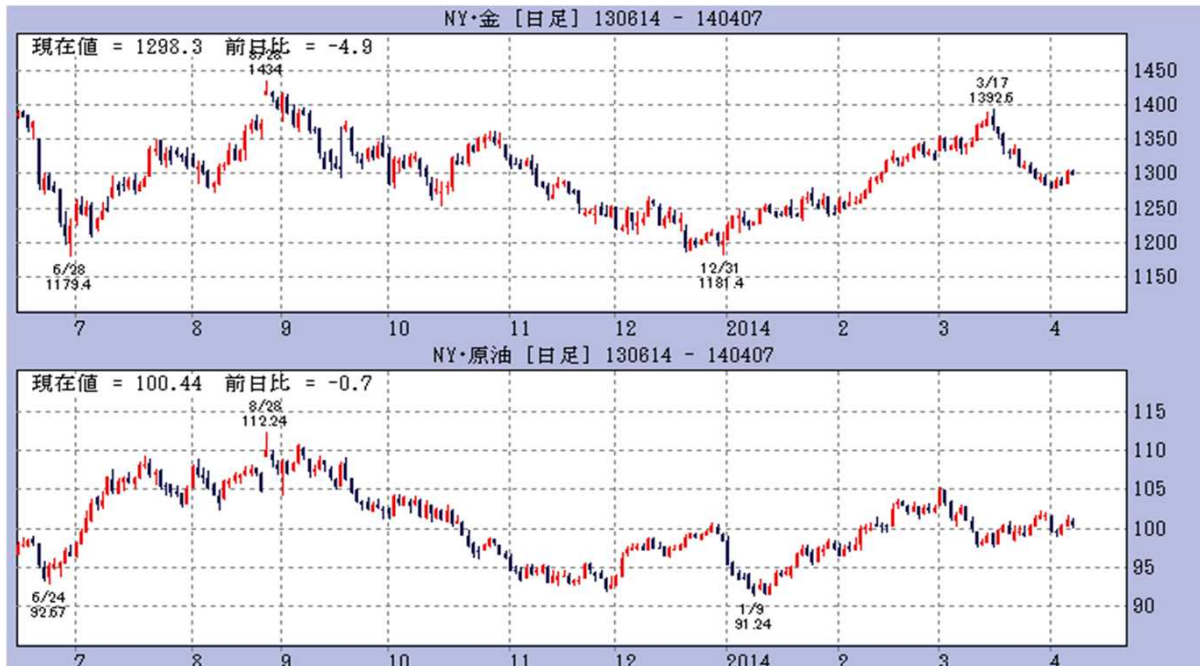
# 週刊経済指標



経済の動きをグラフで見てください。  
毎週火曜日夕方発行

## NY金も原油も反落

発行日 : 2014/4/8



4月7日のNY金6月限は、▲5.20ドル安の1298.30ドル。買いが先行したが、ドル安・株安にもかかわらず、利食い売りが優勢になって値を消した。中国休日による現物需要低迷や、ETF保有金残高減少も弱材料。投機売りで時間外取引の安値を下回ったあと、ドル安加速や原油反発、株価の下値追いで1302.5ドルまで持ち直したが、プラスに浮上できずに上昇は一服した。原油相場の急反落が戻り売りを誘い、朝方の安値を下回って1295.8ドル（7.7ドル安：0.6%）まで値を消した。予想を下回る米雇用統計を受け、先週金曜に急伸した金相場だが、ドル安加速や株価急落にもかかわらず、利食い売りが優勢になって値を消した。中国の休日で現物買いが低調だったことや、世界最大の金上場投信（ETF）であるSPDR保有金残高が減少したことなども弱材料。米雇用は予想を下回ったが、これだけでは米量的緩和縮小ペースを後退する決め手になりそうもなく、利食い売りが押し目買いを上回った。水曜に米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録公開を控えることも手じまい売りを促した。

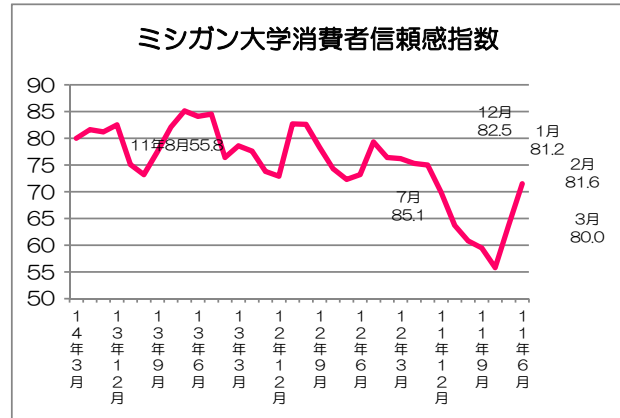
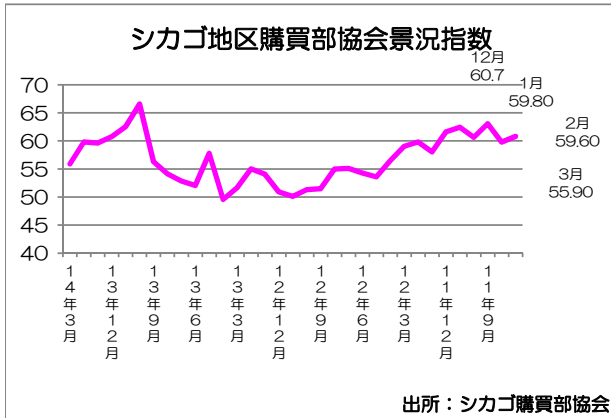
4月7日のNY原油5月限は0.70ドル安の100.44ドル。夜間取引から下値を切り下げると、立会い開始直後に100.22ドルへ下落。リビアの抵抗勢力が政府側へ2つの石油ターミナル明け渡しに合意したことを受け、同国の原油供給が回復する見通しとなったことが嫌気された。その後、売りが続かず、序盤に101.32ドルへと切り返した。ウクライナ軍の将校をロシア軍が殺害したとの報や、ロシア軍がウクライナ東部との国境から30キロ内にとどまるなど、ロシアとウクライナの間で再び緊張が高まっていることや、改質ガソリン相場の急回復などが背景。しかし、買い一巡後が再び下げに転じた。決め手となる支援材料を欠くなか、リビアの供給回復見通しも、クウェート石油相が6月のOPEC（石油輸出国機構）総会での減産の可能性に否定的な見方を示したことや、欧米株式相場下落などもあり、利益確定の動きに押されることとなり、朝方の安値を割り込むと、一時、99.94ドルまで下落した。リビアの抵抗勢力はハリガ石油ターミナル（処理能力＝日量11万バレル）、ズウェイティナ石油ターミナル（7万バレル）を政府に明け渡すと発表。

バルカ地区の抵抗勢力のスポークスマンは、リビア国营石油会社（NOC）はいつでも輸出を開始することになったと述べた。同国石油省によると、この日の原油輸出は8万5000バレル。また、国有石油会社アラビアン・ガルフ・オイルが、パイプラインを通じてリビア東部の油田からハリガ港へ送油を再開したことを明らかにした。

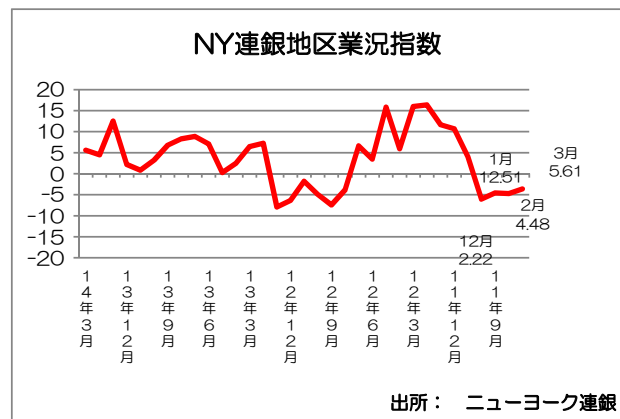
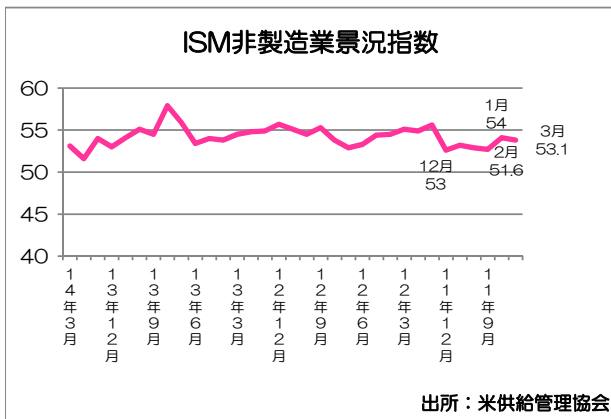
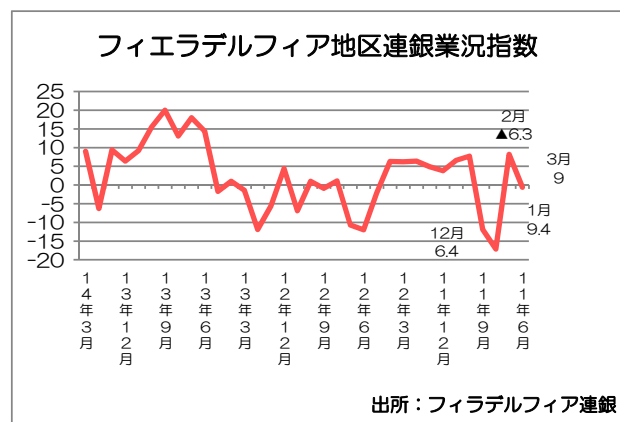
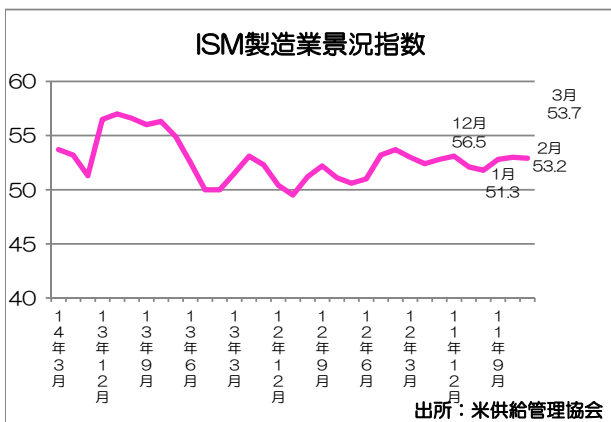
クウェートのオメール石油相は、6月11日のOPEC総会で減産する必要はないかもしれないとの認識を示した。同相は記者団に対し、世界需要が減産を許さないかもしれないと述べるとともに、リビアの輸出再開に向けた動きを懸念していないと付け加えた。（日本先物情報ネットワーク）

## TOPICS 3月の米国の経済指標

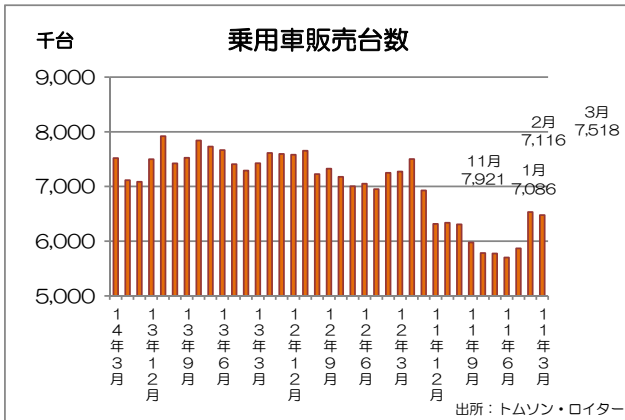
### 景況感はまちまち



3月の景況感が低下したものが二つある。一つはシカゴ地区購買協会景況指数で、2月の59.60から55.90に▲3.70低下した。またミシガン大学消費者信頼感指数も2月の81.6から3月の80.0に▲1.60低下している。一方改善したのはフィラデルフィア地区連銀業況指数が2月の▲6.3から3月は9.0に上昇、ISM製造業景況指数も非製造業景況指数もそれぞれ2月の53.2から3月は53.7に、また2月51.6～3月53.1に改善している。NY地区連銀業況指数は、2月の4.48から3月の5.61に上昇している。



### 米国乗用車販売台数が昨年11月以来の多さ

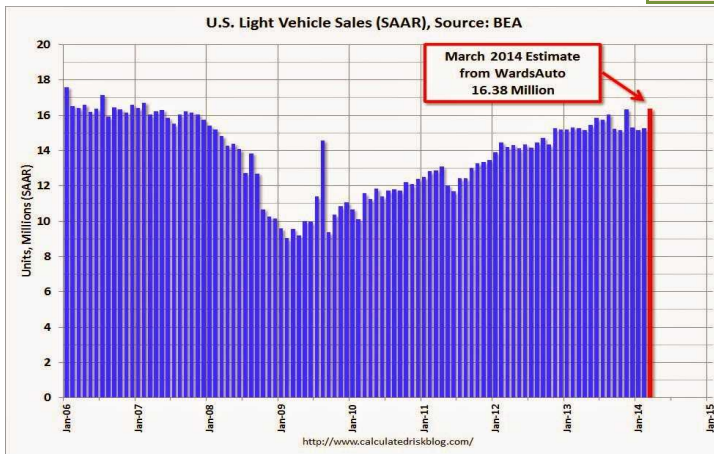


主要自動車メーカーが発表した3月の米自動車販売は、前年同月比5.7%増加し、季節調整済みの年率換算で1640万台となった。年率換算の販売台数は、米商務省が提供した季節調整係数を用いて算出した数字。(ロイター)

販売台数	2014年3月	2013年3月	増減	増減%
自動車	1,537,288台	1,454,498台	+82,790台	+5.7%
乗用車	763,170台	755,254台	+7,916台	+1.0%
トラック	774,118台	699,244台	+74,874台	+10.7%

販売台数	2014年3月	2013年3月	増減	増減%
GM	256,147台	245,950台	+10,197台	+4.1%
FORD	244,167台	236,160台	+8,007台	+3.4%
トヨタ	215,348台	205,342台	+10,006台	+4.9%
クライスラー	193,915台	171,606台	+22,309台	+13.0%
日産	149,136台	137,726台	+11,410台	+8.3%
ホンダ	133,318台	136,038台	▲2,720台	▲2.0%
現代	67,005台	68,306台	▲1,301台	▲1.9%
起亜	54,777台	49,125台	+5,652台	+11.5%
スバル	44,479台	36,701台	+7,778台	+21.2%
VW	36,717台	37,704台	▲987台	▲2.6%
BMW	35,762台	33,149台	+2,613台	+7.9%
ベンツ	34,903台	32,028台	+2,875台	+9.0%
スマート	30,091台	27,104台	+2,987台	+11.0%
アウディ	14,246台	13,253台	+993台	+7.5%
三菱	8,996台	5,286台	+3,710台	+70.2%
ジャガー	6,215台	5,722台	+493台	+8.6%
ボルボ	5,915台	5,365台	+550台	+10.3%
ポルシェ	3,808台	3,486台	+322台	+9.2%
合計	1,534,845台	1,450,051台	+84,794台	+5.8%

出所：トムソンロイター



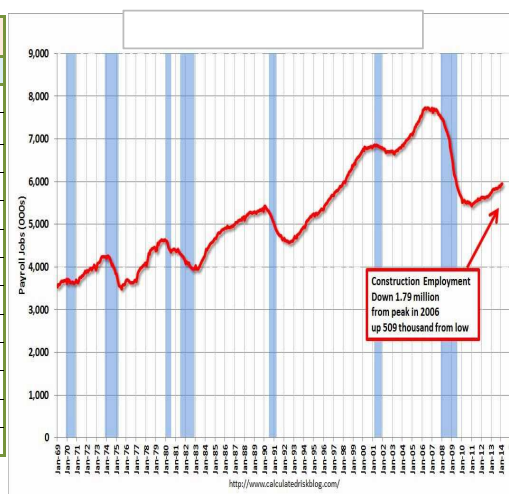
### by Calculated Risk

寒波のせいで消費が減少していたが、1月は非常に寒い日が続いたため自動車販売台数は落ち込んでいた。しかし、そうした時期にあってもあまり寒さが厳しくない地域の自動車販売は伸びていた。当時は寒波が通り過ぎれば自動車のような耐久消費財の売れ行きは増すだろうと予想していたが、実際に3月はその通りになっている。3月の自動車販売台数は2007年7月以来最大を更新した。

### TOPICs 米国の建設業と政府の雇用 by Calculated Risk

建設業と政府の年間雇用者数増減	千人	建設業	政府
2002年	▲85	+233	
2003年	+127	▲42	
2004年	+290	+147	
2005年	+416	+186	
2006年	+152	+209	
2007年	▲195	+288	
2008年	▲789	+180	
2009年	▲1,047	▲74	
2010年	▲192	▲219	
2011年	+144	▲317	
2012年	+114	▲58	
2013年	+156	▲34	
2014年※	+88	▲13	

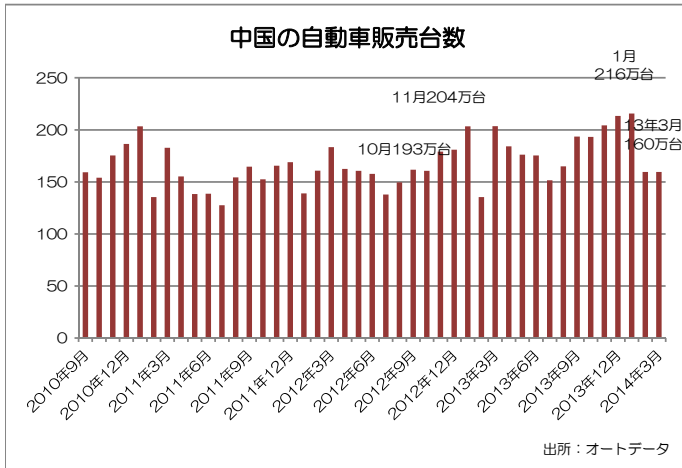
※3月まで



左の表は年間の建設業と政府の雇用の増減である。不況の時期に建設業の雇用は最も大きな影響を受けた業種であった。現在建設業の雇用者数はボトムから53万2千人増加している。

一方政府の雇用は、まだ減少を続けている。(地方政府の雇用は底を打っているが、連邦政府の雇用はまだ減少している。)二つを合わせると不況が始まる前と比べて2百30万人の減少となっている。

## TOPICs 中国の自動車販売台数 by Mark Line



中国における日系自動車メーカーの販売台数

販売台数	2014年3月	前年同月比	1月~3月累計	前年同月比
日産	115,900台	+26.0%	10,197台	+21.0%
トヨタ	90,400台	+19.0%	227,900台	+23.4%
ホンダ	59,915台	▲2.0%	164,010台	+16.8%
マツダ	17,387台	+10.5%	55,028台	+21.6%
スズキ	N/A	N/A	N/A	N/A
スバル	N/A	N/A	N/A	N/A
三菱	N/A	N/A	N/A	N/A

日系メーカー大手3社は、2日までに中国における3月の新車販売台数を発表した。日産とトヨタは前月に続き2ケタ増の大幅プラスを達成、長らく続いた領土問題に起因する販売低迷からの回復を鮮明にした。一方、ホンダは主力セダン「アコード (Accord、雅阁)」の不振が影響し、7カ月ぶりに2.0%減の小幅マイナスに落ち込んだ。以下、多数メディアの報道をまとめた。

日産は2日、3月の中国新車販売が前年同月比26.0%増の11万5,900台になったと発表した。「シルフィ (Sylphy、軒逸)」と「ティアナ (Teana、天籁)」の需要増が貢献したほか、新型「エクストレイル (X-Trail、奇駿)」の受注数もすでに1万台を突破したという。1月は営業日が減少した影響で0.4%減のマイナスとなったが、2月(55.6%増)、3月(26.0%増)と2ケタ増の大幅プラスを達成、好調な成長基調を維持している。1~3月の累計販売は21.0%増の28万3,000台となった。日産は2014年の通年目標を140万台以上に設定している。

トヨタは3月単月が19.0%増の9万400台、1~3月の累計が23.4%増の22万7,900台となった。単月販売は昨年9月から7カ月連続で前年実績を上回っている。昨年発売した新型「RAV4」や新型「ヴィオス (Vios、威馳)」、新型「ヤリス (Yaris、YARIS L 致炫)」が好調で、引き続き新型車効果が鮮明となった。トヨタは通年販売で19.9%増の110万台以上を目指すとしている。

ホンダは「アコード (Accord、雅阁)」など主力モデルの販売が軒並み減少した影響で、3月単月は2.0%減の5万9,915台に落ち込んだ。内訳は合弁会社の広汽ホンダが13.0%減の3万1,412台、東風ホンダが14.0%増の2万8,503台。広汽ホンダは「アコード」が43.9%減の6,078台に落ち込んだほか、「フィット (Fit、飛度)」や「シティ (City、锋范)」、「オデッセイ (Odyssey、奥德赛)」など、昨年投入した「クライダー (Crider、凌派)」を除く全モデルが軒並みマイナスとなった。「アコード」は昨年新型車を投入したばかりだが、高価な印象があるため販売不振が続いている。また、東風ホンダも「思銘 (Ciimo)」と昨年投入した「Jade (傑德)」以外のモデルがマイナスとなった。単月では落ち込んだものの、ホンダの1~3月の累計販売は16.8%増の16万4,010台となった。ホンダは下半期に新型「フィット」を投入する計画で、報道によると、通年目標90万台の達成に自信を示しているという。(マークライン)

## TOPICs ファンドの資金の動き by CFTC

枚	金	銀	白金	パラジウム	銅	原油	ガソリン
2月18日	+20,695	+13,642	+1,874	+1,124	+4,259	+18,399	+15,082
2月25日	+21,629	+3,774	+2,026	▲614	+5,717	+2,452	+12,583
3月4日	+6,025	▲2,774	+4,360	+4,226	▲5,222	+9,087	+2,167
3月11日	+4,928	▲1,998	+4,868	+469	▲8,242	▲19,989	+1,372
3月18日	+19,937	▲2,335	+813	+32	▲6,709	▲25,873	+3,215
3月25日	▲26,673	▲7,377	▲1,540	+66	▲4,642	+6,426	▲3,542
4月1日	▲18,410	▲4,560	▲3,507	+70	+7,200	+1,370	▲931

枚	ヒーティングオイル	天然ガス	コーン	大豆	大豆油	大豆粕	小麦
2月18日	+3,995	+4,150	+16,066	+14,104	+20,950	+4,931	+11,794
2月25日	+11,416	▲3,243	+59,004	+11,603	+15,987	+1,278	+15,328
3月4日	▲1,199	▲17,420	+56,874	▲1,432	+15,167	▲3,641	+14,607
3月11日	▲8,994	+5,639	+50,162	▲20,860	+26,500	▲4,835	+14,282
3月18日	▲10,014	+1,008	+10,032	▲3,455	+775	▲349	+9,212
3月25日	+1,253	▲6,321	+7,576	▲10,337	▲17,883	▲406	+12,203
4月1日	▲5,221	+7,270	+33,647	+11,029	▲6,374	+2,612	+7,784

枚	砂糖	コーヒー	ユーロ	円	ドル	スイスフラン	S&P500
2月18日	+15,905	+13,859	+14,232	+2,725	▲3,957	▲2,590	+435
2月25日	+55,282	+9,043	+4,716	▲1,343	▲2,629	▲3,925	+884
3月4日	+40,197	+8,952	+10,961	▲4,670	▲500	+3,293	▲3,633
3月11日	+31,451	+3,632	+13,874	+5,530	+560	+1,935	+4,639
3月18日	+9,088	+81	+17,095	▲20,144	▲11,970	+6,498	+1,492
3月25日	▲2,186	+3,365	▲11,506	+37,301	+1,116	+5,946	▲729
4月1日	+13,838	+6,550	▲5,728	▲7,408	+853	▲14	+1,115

枚	日経平均株価	長期米国債	15年物米国債	2年物国債	5年物国債	10年物国債
2月18日	▲2,530	+5	+15,882	▲21,990	+52,190	+69,442
2月25日	+276	+1,383	+3,267	+8,744	▲35,910	▲3,400
3月4日	▲477	+9,603	▲29,620	+15,506	▲147	▲78,752
3月11日	▲669	+331	+408	▲12,960	▲10,493	▲36,302
3月18日	▲3,197	▲2,573	+16,393	▲7,816	+21,904	+113,011
3月25日	+401	▲6,260	▲13,909	▲7,313	▲83,820	▲44,707
4月1日	▲814	+7,045	▲5,208	▲38,236	+34,300	+2,931

枚	商品	金融商品	合計
2月18日	+180,829	+123,844	+304,673
2月25日	+223,265	▲27,937	+195,328
3月4日	+129,974	▲78,436	+51,538
3月11日	+78,385	▲33,147	+45,238
3月18日	+5,458	+130,693	+136,151
3月25日	▲50,018	▲123,480	▲173,498
4月1日	+52,367	▲11,164	+41,203

ファンドの資金は、金融商品を売って、4月1日の週は商品を買って持ちしている。

貴金属は売り、銅と原油は買い、石油製品は売り。天然ガス、トウモロコシ、大豆は買い、小麦とコーヒーは7週連続で買われている。砂糖も6週買われている。

円は毎週売りと買いが交錯。ドルは買われ、スイスフランも買われているがユーロは売られている。

S&P500は総じて買い。日経平均は総じて売り。米国債は15年物と2年物が売りで、5年と10年は少し買われている。

## 今後の予想

景気全体に強気と弱気が錯綜しているので商品価格にもはっきりした傾向が出ていない状況となっている。米国では寒波の終了と共に自動車販売が堅調だが、住宅販売はマイナスとなっており、今後の消費需要に期待がかかっている。欧州は輸出が好調であるが、低インフレ率にECBは低金利を継続している。まだ景気が回復したとは言えないが、回復基調にはある状況。そんな中で商品投資は、穀物の買いが目立つ程度で、全般的に先行き不透明な状態が続いている。米国株価は高値を更新していたが、ここ2日連続で急落している。その影響を受けて日本株も頭打ち状態。為替はドル円は102円前後で方向感が無く、ユーロドルも1.37前後で上下している。春は当分こうした動きで終始するのではなかろうか。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておりません。また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。